

《特選》

部落差別について私が思うこと

中央中学校 三年

上田 うへだ 麻梨亜 まりあ さん

私は、最近部落差別についての授業をうけました。私は中学二年生の時も部落についての授業をうけていました。

私は、中二の時と中三の時で部落についての思いが少し変わりました。

私が中二のとき、部落について授業をしたあとお母さんと少し部落について話をしました。お母さんが子供のころも部落差別について授業があつたそうです。その授業でお母さんの部落に住んでいる友達に泣いていたと聞きました。それを聞いて私

は部落差別の授業はするべきではないと思いました。私もクラスの人たちも授業をうけるまで部落なんて知らなかつたです。そのまま知らないままならそのうち誰の記憶からも無くなつて差別がおこらなくなると思いました。私は、知らないほうが良いことも世の中には絶対にあると思います。その中の一つは部落の事についてだと中二のころ私は思っていました。

しかし、中三になつて二回目の部落差別についての授業で私の考えは変わりました。授業で実際に部落差別をうけた人の話を聞きました。その人の話では、尊敬していた人に「あの町はこわい人がいっぱいいるよ。」と教えてもらった事があるそうです。そこは部落の事で尊敬している人だつたし、部落について知らなかつたら、その話

を信じていたかもしれないと言っていました。

私はその話を聞いてから、知らないというのもダメなんだと思います。知識のないせいで知らず知らずの間に差別していたり、そのことを広めたりしていたなんて事はあつてはならないと思ひました。

もし、知識のないまま過ごしていて親とか友達とかが「あの町よくないらしい。」と言つていたら、私はきつと周囲の声に流されて信じてしまつていたと思います。

だから私は、中二の時とは違い部落についての授業は正しい知識をつけるために必要だと思いました。部落について知らなくて自分でもきづかないうちに差別して、人をきずつけていたりはしたくないと思いました。誰もきづつけないためには、やはり学校とかでしっかり授業

をうけて、住んでいるところだけで差別されたりするのはおかしいと思えるようになると思います。

これから、正しい知識を持ち、周囲に流されず、正しい人権感覚ですごしていきたいです。

《選評》

部落差別は、そつとしておけばそのうちなくなるという考えは、今でも根強く存在します。筆者も、中二の時には、部落差別の授業はすべきでないと思つていたようです。しかし、中三の授業で当事者の話を聞き、差別の現実を知ると同時に、無知であることが差別につながることに気づき、人権教育の大切さを訴えている点を注目しました。人権教育を受けることにより人権感覚がアップデイトされていくことが表現されていて、その点を評価したいと思います。